

MHC松本カトマンズ姉妹都市交流事業

「岳都カトマンズ訪問&エベレスト撮影紀行Ⅲ」報告概略

「岳都カトマンズ訪問&エベレスト撮影紀行Ⅲ」は、2011年12月24日～2012年1月8日までの日程(別紙)で松本市民を始めとする参加者13名により実施致しました。参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して古都カトマンズを探訪し、エベレスト山群の奥深く入り込み、ゴーキョピーク5360mの登頂を見事果たして、「山と美しい自然」を控えた岳都交流と姉妹都市交流の責任も果たして参りました。



12/24 PM10:00 カトマンズ空港到着。カトマンズ市キャンディール行政副長官から歓迎を受ける。



12/25AM カトマンズ西キルティプールの丘から望む、カトマンズ市街。北方にランタンリルンを望む。



12/25 カトマンズの世界文化遺産、ダーバースクエアの広場を散策する。



12/25、AM10:30 カトマンズ市役所を表敬訪問する。手漉き紙のノートブックを記念品として贈られる



カトマンズの世界文化遺産、ダーバースクエア周辺の建物群を巡る。中世期マッラ王朝時に建てられたタレジュ寺院、カスタマンダップ寺院そしてガルダ(天翅鳥)を控えたナラヤン寺院など、いにしえを偲ぶ。



12/26 AM9:00、16人乗り定期便で登山基地ルクラへ向かう 白銀のジュガル・ロールワリン山群に感動



ルクラ 2840mで昼食後、パサン・テンバをサーダに、シェルパら 11名とゾッキョ 10頭の大部隊で出発



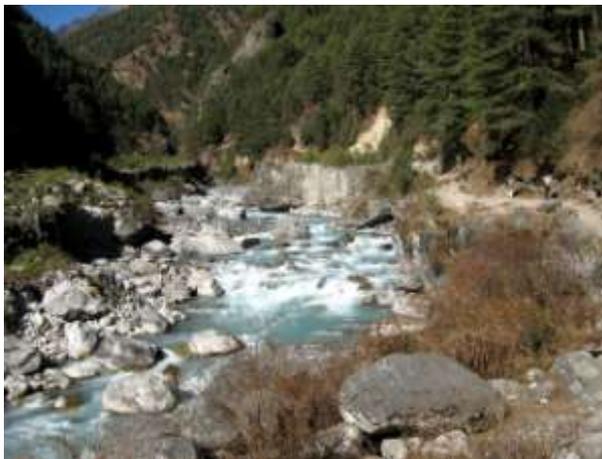
経文を刻んだマニ石と大きなマニ車、崖には寺院が建てられ、チベット仏教の信仰の深さを、あらためて認識させられる。徒歩2時間ほどで、谷奥の頭上に白峰クスムカングル西峰 5579mを仰ぎ見る。



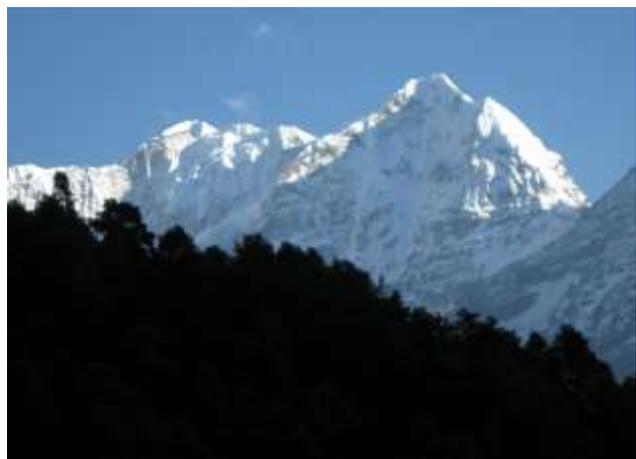
チョルテン（仏塔）が建ち並ぶ道脇を通り過ぎ、1時間ほどでパグディン 2652mに到着。ロッジに泊す。夕食後、サーダー・パサンテンバ、コック・ガラテンバ等シェルパ 11名を参加者に紹介、挨拶を交し合う。



12/27AM6:00 起床、準備を整え AM8:00 過ぎ出発。白銀のタムセルク 6623mを望み、荷物隊ゾッキョ10頭が先行する。神の山クンピーラを望み、AM11:00 ジョサレでエベレスト国立公園入園の手続を行う。



ドード・コシ（聖なる川）に架かる、長い吊橋を幾つも渡る。河原を小1時間歩き、最後のつり橋を渡って、ナムチェバザールへの600mの高度差の登山道を、ゆっくりと登る。



山道を登りつめると、午後4:00 ナムチェ・バザール 3440mに到着する。ナムチェのロッジで一息つく頃、ナムチェの家並みの遥かの高みに、クスムカングルー6370mが夕陽に輝いていた。



12/28、AM8：40 出発。朝陽に輝くコンデリ 6187mとナムチェバザールを眼下に、尾根道を登る。



登り 1 時間ほどで尾根に登り出ると、エベレスト山群の大パノラマに息を呑む。世界最高峰エベレスト 8848 mが、前衛の峰々タムセルク 6623m アマダブラム 6812m タウツェ 6501mを従えるように聳えている。



12/25 カトマンズで文具の引渡しを行う



PM12：30 クムジュン村に到着。早速冬休み中のクムジュン校を訪ねる。マヘンドラ・カセット校長先生は下山し不在だったが、老練な二人の先生と意見交換。MHC 学生寮前で記念撮影をする。

現地では、MHC が 2002 年に建設した学生寮や 600m引き込んだ貯水槽などの管理運営を確認。安曇野市穂高北小学校の手紙・文具は、12/25 冬休みの為カトマンズに滞在していたペンバ・ツェリン運営委員長にホテルで既に引渡し（写真）を行っていた。運営委員長の責任で、文具を生徒らに引き渡す事となっている。



12/29 クムジュン 3780mの朝、サーダー・パサンテンバ、コック・ガラテンバさんも出発の準備に忙しい。AM8:30 出発。タウツェ 6501mが背後に聳えるモーン峠 3979mへ向かう。



クムジュンからは、急峻な山腹の狭い巻き道を進む。この道からは、アマダブラム（母の首飾り）6812mの先峰が、際立って美しく眺められる。



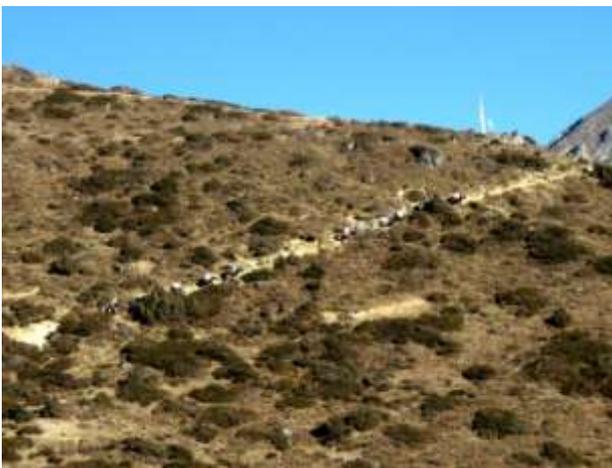
モーン峠 3979mで休憩。チョルテン(仏塔)とはためくタルチョー。背景にタムセルク 6623m、カンテガ 6799mが聳え立つ。峠から小一時間の下ると、PM12:30 ポルツェタンガ.3550mに到着、泊す。



12/30、AM8:30 出発。ラリグラスの林を抜け、カンテガ 6799mを背景に、高度を上げる。前方にチョオユー（トルコ石の女神）8201mの巨人がその威容を現した。



AM11:30、ドーレ 4040mに到着。昼食後、高度順応の為、裏の山に向かい1時間程尾根道を登る。PM3:30 ロッジへ帰還。コック・ガラテンバさんらは、食事作りに忙しい。



12/31、AM8:30、ドーレを出発。マツチェルマ 4410mへ向けて、ゾッキョ隊が先行して登る。我々トレッキング隊も、それを追うように登る。



PM1:00、ようやくマツチェルマ 4410mに到着。昼食後、高度順応の為、1時間程尾根道を登る。陽が翳りだすと、カメラを握る手が凍えるように冷たい。この夜、羽毛のシュラフをダブルにして潜り込む。



2012.1/1 元旦の朝、ささやかに雑煮を食べ、新年を祝う。AM8:30 マツチェルマを出発。ドワード・ボカリの畔を歩く頃に雪が降り出す。前方降雪の中に、目指すゴーキョピーク 5360mがその山容を現した。



PM1:00、ゴーキョ 4750mに到着。昼食後、ゴーキョへの登山道を 5000m付近まで試登し、高度順応への配慮とした。夜 2012 年元旦と甕理事の 67 歳の誕生日を兼ねて、大きなケーキで祝った。



夜半まで雪が降り続く。1/2 夜明けを迎えるが、雲が厚く遠望が効かない。AM9:00 頃から空が明るくなり、諦めかけていた天候に回復の兆しありと判断。登山決行を決め、AM11:00 出発とする。ドワード・ポカリの畔を歩き、積雪約 20cm の山腹の急斜面を、ジグザグに登り始める。



ゴジュンバ氷河、ドワード・ポカリを眼下に、頂上直下 5100m 付近を必死に登る参加者。雲間に、チョラツェ 6440m、タウツェ 6501m が見え隠れしている。北方の雲は厚く、エベレストの姿は未だ見えない。



PM3:30 頃、冷風の中 5300m 付近を喘ぎながらを登る参加者。北方の厚い雲がいつの間にか消え、世界最高峰エベレスト 8848m、ローツェ 8516m が、その姿を高々と現した。



青空を突いて、世界最高峰の威容を現したエベレスト 8848m とローツェ 8516m



PM4:00、辛苦を乗り越えて12名が、次々に頂上に到達。「おめでとう、頑張ったね！」感激の握手を交わし合う。皆、口では言い表せない喜びに浸って目頭が熱くなり、涙があふれてくる。しかし、ピークで感動を味わっている時間は無く、皆、カメラを取り出し、翳り始めたヒマラヤの大山群の撮影を始めている。



夕陽に輝き始めた、世界最高峰エベレスト 88489m左とローツェ 8516m右

PM5:00、西の空に陽が沈み始めると、猛烈な寒気が襲ってきた。撮影を終えた参加者は、徐々に下山を始めている。眼下が闇に覆われ始めても、エベレスト山群の高峰は、鮮やかな橙色に輝いていた。PM7:00 無事ゴークョへ下山。疲労を覚えながらも、登頂の喜びと絶景の余韻に浸りながら、遅い夕食を摂る。



ギャチュンカン 7951m



カンテガ 6799m左とタムセルク 6623m右



夕照に輝くエベレスト 8848m



最期の夕陽に輝くマカルー8463m



1/3AM8:30 白雪を踏みながら下山開始。ツォー・メンマと呼ばれる小さな湖畔から振り返る、ゴーキョと
チョ・オユー8201m。PM5:00、霧雲の中、長い歩きを終えドーレへ到着。翌1/4AM8:30ドーレ出発。



1/4PM3:30 クムジュン到着。夕方アマダブラムの夕焼けを仰ぐ。シャンボチェ空港積雪の為閉鎖となる。

1/5AM7:00、定期便の飛ぶ無雪のルクラを目指し下山を始める。徒歩に自信のない人に馬を提供する。



1/5PM5:30 ルクラ到着。トレッキング成功のお祝いにケーキが作られた。コックのガラ・テンバさんありがとう！。



パサン・サーダーから敬意と勇
気を讃えるカタが、参加者全員
にかけられ、記念写真を撮る。

2012.1/6AM11:30 ルクラから定期便で全員カトマンズへ帰還。その夜、カトマンズ・シャンカール・キャンディ
ール行政副長官ら8名が出席して、報告会を開催。久しぶりの本格的なネパール蕎麦食などに舌づつみを打つ。



1/7 昼、タメールのラム・ドゥードルに MHC 短期大学奨学生 12 名のうち、チェティン・ダルジ君が責任引率者となり、7 名が昼食会に出席してくれました。他の 5 名は、学生寮から外出不可能との事でした。出席した 7 名から、異口同音に学生生活に不満は無いとの事、健康で明るく、楽しい学生生活のようでした。



チェティン・ダルジ



フーバ・テンジン



ソナム・ドカ



ツェリン・カンチ



ダワ・パサン



ペマ・チュティン



ドマ・ヌル



ニマ・ドマ

全員、カトマンズの短期大学に通学。経営学コース、教育学コース、タンカ（仏画）制作コース、そして医師などを目指し苦学しています。
若い彼らが、シェルパの村を、ネパールを背負って立つ事でしょう。

1996 年から 2012 年まで MHC 奨学生は、卒業生、現役生含め、延べ 63 名を数え、エベレスト街道を歩いていると、男女卒業生に出会う事があります。皆で、応援してあげてください。



ケダール・バハドゥール・アディカリ氏

先立つ 1/7AM9:30、カトマンズの新行政長官（市長代理）ケダール・バハドゥール・アディカリ氏を表敬訪問。多忙の中、時間を割いて訪問に対応いただきました。菅谷市長への手紙を託されました。



午前中、世界文化遺産ボド・ナートを探訪。チベット仏教の真髄に近づいた思いがしました。



午後、MHC 奨学生と別れた後、タメールで、お土産品を物色、リラックスしたひと時を楽しみました。夕食は、ネパール舞踏を鑑賞しながらネパール料理ダルバートを賞味。この夜遅く、カトマンズ空港を発つ予定だったが、飛行機の故障で延期。カトマンズで夜を過ごし、香港に一泊して、一日遅れで、1/9 日本時間 PM5:00、成田空港へ到着。貸切バスで松本へ向かい、PM10:00 松本駅アルプス口到着、解散としました。

参加者をはじめ、大勢の皆様のご理解とご協力のお陰で、ネパール・カトマンズとの山岳スポーツ・文化交流と姉妹都市交流の成果を挙げる事ができました。「充実感を味わった、緊張と感動連続のエベレスト撮影紀行でした。」ありがとうございました。

「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ」責任者
NPO 法人松本ヒマラヤ友好会 理事長 鈴木雅則